

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年9月1日

事業所名 PONY(事業所番号:4751700271)

	チェック項目	はい	どちらか いい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切である	○			指導訓練や保護者との面談をするスペースについては複数設けている。 機密性や心理的安全性に配慮しながら、指導や面談が実施できるようにしている。	
	2 職員の配置数は適切である	○				急なスタッフの欠員にも対応できるよう、余剰の人員確保をする必要がある。 また、児童や保護者への包括的なサポートするために専門性の高いスタッフの採用に注力している。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			施設内はフルフラットでの設計。 また、昨年新規で工事を行い、段差スペースにスロープと階段を増設した。 一部、施設の排水処理上、砂利を敷かなければならない場所があるが、スタッフ間で 介助が必要な児童について情報共有を行い、利用の障害にならないように考慮して いる	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			社内の評価指針と連動した、目標設定と振り返りの機会を年2回設けている	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○				
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○				
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			社労士、行政書士による外部評価を実施	
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			定期的に、研修の時間を確保している。		
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			相談支援事業所や、利用している他事業所と連携を取りながら、児童の特性に最適な個別支援計画を設計している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○			アセスメントツールを導入しているが、すべてのスタッフが利用出来ていない。 その点において、標準化しているとは言えない。 今後は、研修を実施し、すべてのスタッフのアセスメントスキルを標準化するよう取り組む
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○			支援計画や児童の変化について、日々共有を行いチームでその日の療育活動のプログラムを立案している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○				
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○				
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○				
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○				
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○				
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○				
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○				
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○					
20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○					

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年9月1日

事業所名 PONY(事業所番号:4751700271)

	チェック項目	はい	どちらでもない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	21			○		
	22			○		現在は医療的ケア児や重症うっ血障害児の利用がない
	23	○				
	24	○				
	25	○				
	26			○		通所児童は 公立小中学校へ通学しており、定型発達児童「障がいのない子ども」との交流は日常であるとの観点から、敢えて交流の機会を設ける努力を通所事業所が行うべきとの考えには至らない
	27		○			地域の子ども支援課との連携(相互の施設見学や説明会)や必要に応じて会議への参加などを実施している。
	28	○				
	29	○				
保護者への説明責任等	30	○				
	31	○				
	32			○		現状では、保護者会を主催するなどは行っていない。顧客のニーズに耳を傾け、希望多数の場合は開催をしたいと思います。
	33	○				
	34	○			公式のSNSアカウントを通じて、施設の様子や取り組み、行事について発信している。	
	35	○				
	36	○			事業所の公式LINEアカウントを開設しており、保護者との連絡は迅速に対応する体制を作っている。 また、LINEはメールや対面などのコミュニケーションと比較して、カジュアルに実施できる事から、児童や保護者の困り感や変化、または成長などをなるべく早くキャッチアップして支援に役立てている。	
	37	○			ハロウィンイベントなど、近隣の児童や利用保護者の友人なども参加可能なイベントを開催している	
	38	○			厚労省が公開しているマニュアルやガイドラインに基づき、実施。従業員への研修だけでなく、保護者にも内容を定期的に周知している。	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年9月1日

事業所名 PONY(事業所番号:4751700271)

	チェック項目	はい	どちらか いいえ	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○				
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○				
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○			安全が図れないと予測される行為には 身体的接触を有することについて、契約時に口頭で説明。保護者の同意を得ている。「危険行為」についての 記載は具体的に記載無し。今後は、具体的な事例について記載し、保護者の理解を深めるよう更に尽力する。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○				
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○				